

夕張市議会だより

2013年11月1日

第22号

議会運営委員会

平成25年第3回定例市議会

第3回定例市議会は、平成25年9月10日から19日までの10日間を会期として開催されました。

付議されたものは、議案11件・認定8件・報告5件に加え、追加議案2件・報告1件・意見書案5件の審議を行い、すべて原案通り可決いたしました。

議案

- ◎ 夕張市財政再生計画の変更について
- ◎ 平成25年度各会計補正予算（介護保険事業・後期高齢者医療事業・水道事業）計3議案
- ◎ 夕張・撫順市友好記念館設置条例の廃止について
- ◎ 夕張市美術館設置条例の廃止について
- ◎ 夕張市観光施設設置条例の一部改正について
- ◎ 北海道後期高齢者医療広域連合規約の変更に関する協議について
- ◎ 工事請負契約の締結に

認定

- ◎ ついて（仮称・夕張市汚泥再生処理センター建設工事請負契約）
- ◎ 平成24年度夕張市水道事業会計未処分利益剰余金の処分について
- ◎ 夕張市公平委員会委員の選任について
- ◎ 平成25年度夕張市一般会計補正予算（追加）
- ◎ 平成25年度夕張市診療所事業会計補正予算（追加）

報告

- ◎ 平成24年度夕張市一般会計ほか全8会計歳入歳出決算の認定について
- ◎ 平成24年度健全化判断比率及び資金不足比率の報告について
- ◎ 例月現金出納検査の結果について（5月～7月）計4件
- ◎ 夕張市財政再生計画の平成24年度実施状況の報告について（追加）

意見書案

- ◎ 地方税財源の充実確保を求める意見書他4件

一般質問の内容と答弁

熊谷桂子議員質問

移住促進事業について



質問

- （１）ワンストップ窓口・支援制度について
- （２）生活体験「ちょっと暮らし」について

《質問詳細》

人口減を止めるために、団塊世代の大量退職や、被災者の方たちの移住受け入れに向けて、北海道移住促進協議会へ加入し、「移住のワンストップ窓口の設置」、滞在型施設の「ちょっと暮らし」体験棟設置の

実施を。

■答弁

現在、道内68%の市町村がこの事業に取り組み、必要で重要だが、依然として行政執行体制が厳しく、今年度末7名減の予定で、補充については非常に不透明。体制確保に向けて国・道と協議中であり、現時点で新たな事業は困難。しかし人口減に歯止めをかけるため、交流人口増加・定住対策は、これまで以上に、可能な限りの手法でPRに努めたい。

■質問（再）

職員の補充も認められない状況で、まちが再生できるのか。再生に向けてしっかりと職員体制の確保をし、若い職員の採用もして、職員の皆さんがゆとりを持って、市民のために頑張れるようにしていただきたい。

■答弁（再）

市民の皆さんにしっかりと行政サービスの提供する上でも、しっかりと人員確保をしていきたい。

財政再生計画の期間短縮について

ご意見・ご感想をお寄せください

夕張市議会事務局
本町4丁目市役所内
電話 4頁に記載

編集委員

委員長 厚谷 司
委員 熊谷 桂子
委員 島田 達彦
委員 小林 尚文
委員 小山 修二
副委員長 委 員 員 員

夕張市議会では議会の活動を多くの市民の皆様にお伝えするために、「議会だより」を発行しています。また、市役所本庁・南支所及びふれあいサロンにも配布しております。

■質問

市長の政策である「財政再生計画の期間短縮」について、これまでの経緯・現状・今後の展開は。

■答弁

国・北海道に働きかけており、揺るがぬ目標。（結果的に期間短縮に結びつく）財政支援を強く要望し、国からは「財政再生計画の期間短縮が悲願であることはよくわかった。毎年度、毎年度考えていきたい」という回答。

本年3月、新藤総務大臣から「厳しい財政体制の維持、地域活性化の二つの相互作用によって、期間短縮が実現できないか協議を続ける」という発言。第2回目の三者協議後の懇談で、

国からは「できるだけ早く卒業したいという思いを受け止めつつ、CBM（炭層メタングス）などの取り組みを計画に盛り込み、活力あるまちづくりに対して、議論を」という発言。財政再生団体を早く脱却することとは三者共通の思い。現状認識として、破たん以降、近隣自治体との子育て環境の比較により、若い世代の市外流出が顕著になり、人

口減少を痛感している。

今年度10月より乳幼児医療費の無料化、定住対策の一環として子育て環境の充実を進める方針を三者が共有。こうした政策により、人口流出の歯止め効果を期待する。今後も、国と北海道と真摯な協議を行う。

■質問(再)

財政破たんの責任は国や道にもあることは、研究者の間でも定説。夕張の子どもたちや市民の信頼のためにも、真実をしっかりと追求することが、今必要ではないか。

■答弁(再)

私もマスコミを中心に、誤解を持つている人がいることから、歴史的な経過については、市を代表してあらゆる機会を通じて伝えている。

■要望

高齢者・若者・子どもたち・孫たちのためにも歴史的な事実を明らかに、「財政再生計画の期間短縮」の早期実現を。

藤倉肇議員質問

石炭採掘権について

■質問

(1) 保有に至る経過とその

背景に対しての歴史的認識を問う

(2) 道内の石炭及び石炭層を再活用する動きがある中で、「石炭採掘権」を無条件で国に返還することは、市民の理解が得られないと思うかがか。



《質問趣旨》

石炭採掘権は旧炭鉱会社からの負債の肩代わり、いわゆる「借金の担保物権」と認識している。会社は倒産し、その後始末に市は社会基盤整備（住宅・水道・道路・学校等々）に583億もの費用を要した（本来は国と企業がやるべきこと）。市が巨額な借金（市債発行）の代償に企業から譲渡されたものである。こ

れは夕張市民共有の財産であり、将来への希望である。法的にどうあるのが無条件返還には大反対である。

■答弁

炭鉱閉山の跡地処理の一環として市が企業から引き継いだものと認識している。市民の共有財産であり、

今後の活用の可能性もあると思われるので、48鉱区を調査し、有効活用を図っていく。課題も多くあると思うが有識者の意見等も聞き対応していく。夕張市民の石炭に対する思いは強い。資源の活用は夕張にとって重要である。

炭層メタングス(CBM)への取り組みについて

■質問

(1) 今後の市の取り組みについて

《質問趣旨》

道内の「石炭層の再活用」への動きが活発化してきている。夕張市の炭層メタングス(CBM)に対する取り組みはどうなっているのか。

■答弁

「炭層メタングス」は市の重要課題と位置づける。

メタングスの活用についても今後の国・道・市の三者協議において説明し共有した。市の独自の開発はできない現状にあるが、民間主導の取り組みを進めていきたい。

地下資源を活用し「エネルギータウンづくり」を実現していきたい。

■要望

「財政再生計画の期間短縮」を実現するためにも、この石炭採掘権は国との交渉の有効な手段でもあることから、市長の政治的手腕に期待したい。

厚谷司議員質問

今後の子育て環境の充実策について

■質問

(1) 本年度三者協議の結果を踏まえ、事業を進める方向で検討としているが、どのような課題を重視するか。

(2) 子育て環境の充実政策は広範なものとなるが、どう庁内連携を図っていくのか。

■答弁

子育て環境の充実は、未来を創る宝である子どもたち、未来への投資と考えており、住宅・交通・医療と並ぶ最

重要課題と認識している。

施設面・政策面にそれぞれ課題があるが、財政破綻以降、育児環境、学力向上など子育て環境がどうあるべきかという総合的な検討が行われていなかったものである。

様々な分野の政策が複合的に関連することから、市内の連携により検討を進めたい。

まずは本市における子育て環境がどうあるべきかを検討していきたい。

財政再生団体における 公共サービスへの 影響の検証について



■質問

(1) 計画遂行4年目となつたが、検証を行うことの必

要性について、市長の考え方は。

(2) 本来、市が計画の遂行と同時に検証を行うべきと考えるが、現状はどうなっているのか。

■答 弁

(1) 財政再生計画策定から4年を経て、現計画と市が置かれた状況に乖離している部分がある。先の三者協議においても市の課題提示とともに、将来に向けた計画見直しの必要については三者で認識を共有したところである。

(2) 将来に向けた収支の見通し・事業費や財源を推計していくことが必要と考えており、今後、地方財政計画や国の制度改革などの動向を見極めながら今後1年程度をかけ、計画と大きく乖離している項目を中心に精査し、計画の見直しを図るべく対応を検討していきたい。

■質問(再)

(1) 外部識者の検証についてはどう受け止めるか。

■答 弁

また、外部識者の検証についても、再生にしっかりと結びつく提言は真摯に受

け止め、計画に反映させるべきと考えている。

角田浩晃議員質問

夕張市立診療所の 改築について



■質問

(1) 中断している医療保健対策協議会の進め方について。

(2) 市立診療所の改築計画の基本方針について。

(3) 診療所の建設時期について

(4) 診療所の改築に必要な事項としてどのようなことを考えているのか。

■答 弁

(1) 平成24年度中に医療保健対策協議会から答申を受

け、市立診療所改築計画を示す予定であったが、市の進め方にも至らない点があり、本年1月から中断していることについて、申し訳なく思っている。

今後は市内医療機関と協議を重ねて一定の方向性を出して、医療保健対策協議会に提案し、早い段階で協議会からの答申を受けられるよう、進めていきたいと考えている。

(2) 新しい診療所は市民の安心のためにも必要な施設であると考えている。建設場所としては市民の利便性やコンパクトシティの考え方からも清水沢地区が適当であると考えている。

(3) まずは現在の建物で平成29年から指定管理を受けていただく医療法人を選定していきたいと考えている。その後に新しい診療所の供用開始時期として平成31年とする案と、最長10年ほど先送りをする平成39年案の二案を考えている。

(4) まず、市内医療機関の中心的な役割を担う施設であること、将来的に安定した運営の条件として、へき地診療所の認定を受ける

ことが必要であると考えている。さらに社会医療法人の支援が不可欠であると考えている。

【へき地診療所とは】

・半径4kmに他の医療機関がない。

・区域の人口が千人以上。

・最寄りの医療機関まで30分以上。

【社会医療法人とは】

・北海道が認定する公益性の高い医療法人で、へき地医療・救急医療など地域で公共性の高い医療を担う。

・一方、本来業務については法人税が非課税となるほか、収益事業の実施が可能となり、経営の安定に有効。

大山修二議員質問

コンパクトシティ構想 について

■質問

(1) 市営住宅再編事業について

《質問趣旨》

現在、一期計画で百戸の住宅建設を実施中(25年度までに南清水沢に60戸、27年度までに宮前町に40戸建設)であるが、二期計画(28年度以降)の内容が市民の皆

さんに、その計画内容が明らかにされていない。

夕張市民の約五割の人が市営住宅を利用している状況で、今後の住宅建設についての市の考えを公表すべきではないか。

《質問趣旨》

真谷地地区の住棟集約について、居住されている皆さんにも相当の負担を強いている事と考えるが、対象となっている皆さんの反応とこの事業の進捗状況について。

(3) 道道一〇〇八号(夕張長沼線)について

《質問趣旨》

コンパクトシティ構想では、清水沢地区を「都市機能が集積した、夕張の新たな拠点となるまち」と位置づけているが、国道274号・452号・道道3号(札幌夕張線)が災害等で遮断された場合を想定した時や、救急搬送を考えた時に、この「新たな拠点から」のルート確保は大変重要になることから「早期着工・早期開通」を北海道に對して、強く要望していくべきではないか。

■答 弁

(1) 二期計画では毎年10戸の建設を予定しているが、その実施については財源確保が必要であり、今年の国・北海道・夕張市との三者協議でも課題として協議され、建設に向けて継続協議となっている。

市民の皆様との情報の共有も重要なことだと考えており、今後の情報発信について工夫しながら広報等で周知していきたい。



(2) 住棟集約については、入居者の共益費(電気・除雪費等)の負担軽減を図ると共に、管理する行政側の経費(除雪・修繕等)の削減を図れると考え、説明会および個人面談等を実施し

ながら理解を得ている。

また、現在住宅の改善工事を実施しているが早期の引越しが可能となるよう対応している。

(3) この路線は、ご指摘の災害時や救急搬送時並びにシュールパロダムの完成に伴う観光振興等札幌圏からのルートとして、大きな効果が期待できる路線であると認識している。

現在、空知地方総合開発期成会要望を始め、道費に對する市町村要望ヒアリングでも取上げ不通区間の解消を要望している。また、関係自治体と連携を取りながら「早期着工」について、要望を行ってまいりたい。

議会事務局の電話番号は
52-3172

です。なお、事務局職員が不在となることがありますので、その際は、恐れ入りますが、市役所代表電話

52-3131
までお願いいたします。

栗山町議会との合同研修会を行いました

去る8月9日(金)、今期3度目の栗山町議会との合同研修会を開催し、全議員が出席しました。

この日の研修では、夕張市議会基本条例サポーターで、元栗山町議会事務局長、現在は東京財団研究員の中尾修氏から「全国に広がる地方議会改革」-地域民主主義・住民自治の視点で考える-と題した講演が行われました。

中尾氏からは、全国で議会改革が叫ばれ、議会基本条例の制定などが取り組まれているが、未だ住民からは「議会は変わった」と評価される場面は少ない。「あってよかった」と言われる取り組みを行うこと、評価を受けることによってさらに課題が明らかになることから、議会改革に関する住民アンケートなども実施すべき、などのお話がありました。

また、議会基本条例は「夕張市議会という塊・チーム」として何をすべきかを明確にすることが重要、また「国(制度)との関わりの強い執行側と違い、民意をくみ取ることのできる議会として、民意を反映できる隙間を探っていただくことが夕張市議会としての見せ場となる」のご助言もあり、今後夕張市議会としても議会基本条例をさらに市民の皆様に活用していただくべく、施行後半年の検証を踏まえ、しっかりと議論してまいります。

